

農村伝道神学校学報

学校法人 鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 平良 愛香

「身体を動かして」

農村伝道神学校教師 池迫 直人



「百姓は身体動かしてなんぼのもんやでなあ」という言葉が、今も響いている。今から26年前、田瀬教会（岐阜県中津川市）に務めていたわたしの大切な教えであり、これは日々20〜30^キの荷物を背負って南木曾の高嶺に上り、森林の仕事をなさっていたある教会員の言葉である。赴任して間もない頃、土曜の早朝（当人の自覚は早朝ではない）一仕事終えた教会員から電話が鳴り、「センセ、今日生コン

頼んで、昼からみんなで小屋のキノ、ベタ打ちするでああ…」また、農閑期冬の間には、礼拝の後、皆で持ち寄った炊き込み飯、カブラ漬けなどに舌鼓を打ち、持参したチエーンソー、刈り払い機、ナタ、鎌などそれぞれに巧みに振り回し、中山間地にある一町歩（3万5千坪）余りの広大な教会の傾斜地を整える仕事をしたものだ。当時60代の高齢（？）女性も、ナタや刈り払い機を自在に使いこなし、障がいのある教友もいっしょだった。そんな田瀬の皆さん、それ以前のアジア学院、北海道の各地の三愛塾、その後の下北半島にある田名部教会、かつての農村、谷戸にある藤沢大庭教会と地域の皆さんがわたしにとって農村伝道の師である。

安全保障関連法廃止！ 辺野古新基地建設反対！

このような経験が、幸か不幸か、今になって農村伝道神学校で活かされている。農伝は今、「ナラ枯れ」の被害に直面している。「ナラ枯れ」で検索すれば林野庁、多摩地域の自治体のHPに載るほどに深刻な事態に直面していることが分かる。おおむね人は、「地球規模の…」と聞いて、分かっていたつもりでも自分の問題とはならない、足下の現実ならば、あらためて深刻に受けとめるものだ。農伝の「ナラ枯れ」のおおもとの原因は水不足、老齢木、温暖化などさまざまだが、木食い虫が越冬し、持ち込んだ病気（萎凋病）をひろげてナラ科の樹木を片っ端から腐らせていく。ここ数年シイタケが採れないのもそれゆえだったのだ。五反歩ある栗林の栗の木が、どれも樹幹を切っても再生しないのは、運動公園の深い基礎工事などで周辺の水の流れが寸断されるなどが要因かもしれない。

側面の樹齢約60年、直径1mを超えるクヌギの大樹が、根から腐れて研修棟の屋根に倒れこんだ。被害は、建物だけで約200万円、倒れた樹の片付けを見積もったところ60万円だった。チエーンソー1本ですむはずだが、重機を用いての作業だという。赤字が常態化している神学校の経費節減のために、樹木の片付け作業だけは引き受けた次第である。さらにその後、梅雨明けから、クヌギ、コナラの大木が枯れていった。これは、校地に通うシオン幼稚園のこどもたちにとっては、極めて危険な状況だ。卒業後、昨年春から農場職員としてパート勤務となった松本吉氏光さんと、昨夏、これも経費節減のために十数本の木々を倒すことになった。さらに、倒した大量の樹木を炭にし、水・土壌環境の問題を炭により改善しようとしている。川崎教会、頌和幼稚園のつながりで炭焼き農家出身であるボランティアの方の協力により、日干しレンガをつくって小さな炭焼き窯を2基制作した。校地一帯に炭を焼く煙が漂い、心身の疲れを癒すかのようだ。



倒木が研修棟を直撃2022年3月

しかし、言葉にしようとするば、冒頭の「百姓は…」が脳裏に響き、小さくないためらいが生ずる。誠実な農家の皆さんには、語られる言葉を観て、触ることができ、直感的に単なる思弁かどうかは自ずと知れるだろう。そういうえば、高森草庵を訪ねた30年前、押田神父が「こんな処に（瞑想をしに）来る前に、そこらの農家に行つて、教えてもらつて来い！」と喝破されていた。いま、教育目標に掲げた言葉の「実質化」をめざして校地を含む「農場の方向性」を、教師会において、同時並行で検討している。

アドヴェント礼拝の報告

「闇の中で待つということ」

石井智恵美

農伝の丘に夕闇の降りた12月2日(金)午後5時、アドヴェント礼拝が始まりました。今年も学生会が企画を担当し、作成した式文(担当…2年安田直人さん)を用いての礼拝となりました。礼拝説教は今年初めて「新約学特講」を担当してくださった安田真由子先生にお願いしました。聖書箇所はルカ福音書1章39節、45節のマリアのエリサベトの訪問とマグニファイカート(マリアの賛歌)でした。安田先生はフェミニスト批評・ポストコロニアル批評の立場から、このマリアのエリサベトの訪問とマリアの賛歌のテキストを読み解きつつ、メッセージを語ってくださいました。

エリサベトもマリアも例外的な妊娠(一人は高齢で、一人は結婚前に)で、周囲からの好奇の目や批判にさらされる立場にあり、そのために二人の間に共に受け入れ合い励まし合う連帯の関りがそこに生起しました。その喜びからマリアはマグニファイカート(マリアの賛歌)をもって神を賛美します。それを今回のメッセージの中心にしてもよかったです。安田先生は前置きをして、マリアの賛歌

に描かれている神のイメージについての違和感を語ってくださいました。

「私の魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。:(略):主はその腕で力を振るい、思いつける者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ:

」(ルカ1:46、51、52)

マリアは当時12、3歳の少女でした。そして、自分を「身分の低い者」として感じ、「その腕で力を振るい、思いつける者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし」とほしい、と願わずにはおれないほどの苦しい経験をしてきた、と想像できるのです。しかし、なぜ神のイメージがこのような軍事的なメタファーで描かれるのか、安田先生はそこに違和感を感じる、というのです。平和の主を待ち望む私たちが、なぜ「万軍の主」「天使の軍勢」といった戦いで力を振るうイメージでしか、神をイメージできないのでしょうか。本当に辛く苦しい出来事に遭遇すれば、人はそれを力でもって解決してくれる英雄的な救い主の出現を願います。マリアもそうだったかもしれません。しかし、本当にそれでよいのか、それが安田先生の問いかけでした。私たちは戦いとは違う

イメージで、平和や喜びや神のイメージを想像し、それを共有することはできないのだろうか、と。「力強い神」といつても、暴力に豹変する可能性のない力はありえませんか。では私たちは虐げられている者を回復する「力」をどのようなものとして望み、どのようにならぬ力を扱おうべきなのか。わたしたちは平和を望み、光を望むといつても、貧しいイメージしか描いていないのではないのか、と安田先生は問いかけられました。しかし、「その腕で力を振るう」ような英雄的な神ではなく、エリサベトがマリアを抱きしめた優しく柔らかい両腕のような平等で柔和な神を私たちはイメージすることもできるのでないか、と。

その後、ろうそくに灯りをともして、式文をもとにこの世界の苦難を覚えての祈りをささげました。私たちの心にまだ見ぬ神のイメージを想像しながら、その祈りを共に祈ることが出来たのではないかと、と思います。礼拝が終わる頃には漆黒の闇。私たちの心に灯った光を各々が抱きしめての散会となりました。

なお、席上献金は「アトウトウ・ミヤンマー支援」(軍事政権下で困窮しているミヤンマーの人々への支援)に捧げられました。

農伝シンポジウム報告

「破局の中の希望」

3年 後藤田 由紀夫

2023年1月20日に福嶋揚先生(東京大学・立教大学講師)をズーム(オンライン)でお迎えし、「破局の中の希望」というテーマで農村伝道シンポジウムが開催されました。以下その内容を簡単に

お伝えします。

午前の部…I 金の力、武器の力、そして第三の力

地球という「共に暮らす家」を破壊する三重の災禍を紹介し、武器の力とも金の力とも異なる、わたしたちが考えないといけない第三の力とは何か、という話。ヤスパースの枢軸時代論(帝国が支配する前の国々の戦争の時代に現代まで続く深い哲学・宗教が生まれたインドの釈迦、中国の老子、ギリシャ哲学、イスラエルの預言者など)、キリスト教においても今や、国家神学ではなく、教会神学でもなく、預言者の神学が必要である。古代イスラエルの例では、預言者や律法に見られるような、分配的正義や修復的正義に基づく、既存の国家や宗教への規制、改革、さらに資本主義(マモン崇拜)という名の物神崇拜に対する根本的な批判が必要である。金の力でも富の力でもない、これこそ「第三の力」

である。

午後の部…II 資本主義を脱魔術化する

市場原理は、金、資本といった物神崇拜(フェティシズム)の神々によって新たに魔術化される。それは「抑圧者が、自分たちの支配を正当化し続けるという構図」である。資本主義の悪と災禍は、受益者たちの視点からではなく犠牲者の視点から初めて明らかになる。「貧しい者のための優先的選択」は、社会システム全体を見ることができ唯一の立脚点である。出エジプトに始まる神の介入は、既存のシステム単なる改革ではなく、脱出、システムそのものの克服を目指す。神がもたらす対抗的社会(contrast society)は、正義と連帯を実現する社会。新約聖書においてそれはイエスの「神の国」である。

GDPを増大させつつ、環境負荷を減らすという「デカップリング」はおそらく不可能。21世紀に入ってから、原発事故、気候変動、パンデミックなどが再び資本主義の限界をつきつけている。経済成長の名のもとに、公衆衛生にかける予算を削減し、社会と国民を守るためのインフラ整備をおろそかにしてきた数十年間のツケがコロナ禍ではあらわになった。ロックダウン

ンという「国民生活のために経済を犠牲にするという、資本主義の歴史上でも極めて例外的な事態」が発生した。わたしたちは経済的なカウントダウンを経験した。むしろこの経験は、わたしたちの生活の在り方を見直す機会ととらえることが必要。世の中はコロナ禍から立ち直って以前の経済成長の道へ戻ろうとしているが、その中で今までとは違うあり方へ社会が変化していく可能性はある。脱成長（あるいは定常経済）。「人間と地球のシステムにもたらす害を最小限にするため、ものごとを意図的にスローダウンしていくこと」「脱成長社会の定義となる条件は：互いのケア、そしてコミュニティの連帯」「土地に根をおろした対抗社会」などである。

そのほか福岡揚先生は、「コモン（公共）」あるいは「コモン・グッド（共通善）」の再認識、「あらゆる資源を民営化・商品化する風潮を否定し、それらの資源に対してコミュニティができるだけ大きな主導権を確保・維持すること」の可能性、また、「崩壊学」（これから来るであろう破局に対して、どのような態度を取り得るか）について精神科医エリザベス・キューブラー・ロスが明らかにした、死を受け入れる五段階に学びながら、徹底的な絶

望を通り抜けてはじめて、希望が見えてくることを話してくださいました。

キリスト教は「死」をとおりにぬけてはじめて「復活」が起きることを語ってきた。ここに人知を超えた未知、人為を超えた未来、自力を超えた他力が現れる。両要素を統合してきた伝統的な終末論の現代的意義が見えてくる。これを伝統宗教、終末論の意義の「高次元の回復」と言ってもよいだろう。もともとそれだけでなく、「低次元の回復」たとえば、国家や資本と結託する宗教的原理主義の復活も起きるだろう、と。

農村伝道神学校で学ぶものは、低次元でもあり、高次元でもある。それは『生きていくこと』を学ぶからであり、人間から学ぶこと以外に、農に関する生きものが私たちを教えるからではないだろうかと感じたシンポジウムでした。

追悼



関田寛雄先生に学校から送った「70周年記念誌」のお礼の「主の平安をお祈りいたし

ます」と始まる12月6日付けの私宛のハガキを神学校で受け取りました。その数日後に先生の召天を知った時、私達には衝撃が走りました。先生は直筆で、創立70周年記念誌送付を感謝し、「顧みれば1971年から95年までの25年間を説教と牧会学を担当し、その後も現在まで、私は農伝と関わって来ました」と書いています。神学校の授業で、また直々に川崎戸手教会で多くの人が鍛えられました。大倉一郎前教師や、現任の石井智恵美、池迫直人の教師もある時代を川崎戸手で関田先生との出会いを経験していま

ます（ママ）」と70周年誌の内容にふれ「すばらしい記念誌に踏まえて100年に向けて力強く歩んで頂きたいと、心から願っています」と結んでいます。心強い支援に感謝でありました。

先生に私がお会いすると必ず「農伝をお願いですよ」と、「北村慈郎牧師の教師復帰・名誉回復するまで死ねない」と言われていました。12月15日召された関田先生の葬儀は、以前から託されていたその北村慈郎牧師によってご家族中心の葬儀が12月20日に営まれました。

農村伝道神学校
理事長 禿準一

校長より

・二〇二二年度卒業式（二〇二三年三月）は卒業生がいなかった行われませんが、卒業式の数え方は1回と数えます（すなわち昨年の卒業式は第72回で、今年が行われないけど第73回、来年は第74回となる）。実は原簿と同窓会名簿ではずっとそうだったので、学報では卒業式の無かった年はカウントせずに回数を表記していった時期があることが分かりました（具体的には二〇〇八年の卒業式が第58回なのに、前年卒業式がなかったため、学報の記載では第57回になっており、そのズレが約10年続いていた）。二〇一四年からは正しい数字に戻っていますが、一応訂正をお知らせしておきます。

・問安報告 一二月一日から一四日にかけて沖縄教区、一月一日に九州教区の卒業生を訪ねました。石垣島で大倉隆一さん、小林明さん、増田陽一さん、保育科11期卒の大仲（石川）朝江さん（いろいろ保育園の職員として今も働いておられ、太田知恵先生さんから習った「忘れなぐさの歌」（70年記念誌 p57）を平良と一緒に歌いました）、農業研修科卒の田盛一雄さんにお会いできました。田盛さんからは、「農伝で学んだことが、今すべて役にたっている！」という有難いお言葉をいただきました。

宮古島では坂口聖子さん（卒業生ではありませんが、宮古島伝道所は農伝とは深い関わりがあります）、沖縄島では島しづ子さん、久保礼子さん、石川栄喜さん、玉那覇正信さんと懇談することができました。どの島でも沖縄教区が抱えている課題やビジョンについて語り合うことができました。

九州では在日大韓熊本教会を会場に秋永好晴さん、石倉夕子さん（オンライン）、金聖

孝さん、小平善行さん、佐藤真史さん、竹花牧人さん、山口政隆さん（オンライン）、山田原野さん、吉武二郎さんと懇談。歴史的にキリスト教に對してのイメージが悪い地域での伝道の大変さや、長く同じところで宣教を担うことの意義と引継ぎの難しさなどを熱く語り合いました。お互いに仲間がいると実感できた、それぞれにとっても励まされた問安の時となりました。今回お会いできなかった卒業生にも、改めていつかお会いしたいと思っています。

・関田寛雄さんが逝去されました。私を含め、多くの学生が関田さんから学びました。「教団のあるべき姿を最も鮮明に打ち出しているのが農伝である」といつもおっしゃっていた関田先生の思いに込めていきたいと思えます。

同窓生等個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。移動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ感謝です。また、任地や招聘の相談を人事委員会が承っていますので、どうぞご利用下さい。

一川崎 望（神学科第九回卒）

—— 2024 年度入学案内 ——

◆**受験資格**
 (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後 1 年以上（洗礼式を行わない教派については、それに準ずる）の教会生活をしている者。
 (2) 所属教会が推薦し（可能であれば）、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆**修業年限**
 ○神学基礎コース：2 年間（2 年間で修了することも可）。
 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
 ○神学専門教職者養成コース：2 年間
 ○神学専門信徒宣教師養成コース：1 年間または 2 年間

◆**学費**
 入学金 60,000 円（入学時のみ）
 授業料 240,000 円（年額）
 設備費 30,000 円（入学時のみ）

◆**受験手続**
 次の書類を期日までに郵送または持参する。
 (1) 入学願書（本校指定の書式）
 (2) 履歴書（本校指定の書式）
 (3) 教会（牧師または役員会）の推薦書（可能であれば）
 (4) 最終学校卒業証明書（または卒業見込み証明書）
 (5) 受験料 10,000 円（振り込み）

◆**入学願書受付**
 第 1 回 2023 年 10 月 17 日（火）～ 11 月 2 日（木）
 第 2 回 2024 年 1 月 16 日（火）～ 2 月 2 日（金）

◆**入学試験日時**
 第 1 回 2023 年 11 月 14 日（火）午前 9 時～午後 3 時
 第 2 回 2024 年 2 月 13 日（火）午前 9 時～午後 3 時

◆**会場** 本校教室
 ◆**入学試験科目** (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接
 ◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください（無料）。

農村伝道神学校
 〒 195-0063 東京都町田市野津田町 2024
 Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
 E メール：noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ：https://noden.ac.jp/
 振替番号
 学校法人鶴川学院 00140-7-635524

六月三日召天 九二歳
 二 吉川さえ子（保育科第二二回卒）九月二日召天
 三 熊谷恵子（保育科第一三回卒）十月二日召天
 四 福島幸子（保育科第二回卒）十二月二日召天

異動
 一 長井美歌（神 56）高座渋谷教会就任
 二 石沢陽子（神）滝川二の坂教会辞任

● 九日 上大岡教会（後藤田由紀夫）、横浜港南台教会（藤木謙一）、林間つきみ野教会（高柳研二）、埼玉通り教会（池田昌功）、三鷹教会（安田直人）
 ● 一六日 大泉教会（後藤田由紀夫）、鶴川教会（安田直人）
 ● 二三日 川和教会（吉川拓実）、相武台教会（池田昌功）、城西教会（後藤田由紀夫）
 ● 三〇日 六角橋教会（藤木謙一）、三・一教会（高柳研二）、埼玉和光教会（吉川拓実）
 ◇ 二月二日（金）待降節アドヴェント礼拝 お話・安田真由子さん
 ◇ 一月二十日（金）農村伝道シンポジウム 講師・福嶋揚さん（オンライン）「破局の中の希望」
 ◇ 二月一四日（火）第二回入試
 ◇ 三月一日（水）終業礼拝

理事会議員会報告

二〇二二年度第三回理事・評議員会が昨年十一月二十五日に日本基督教団生田教会を会場に開催されました。
 主な議案は補正予算案の審議、認定子ども園鶴川シオン幼稚園の運営と利用定員の變更、寄附行為施工細則變更についてでした。
 補正予算案は、幼稚園が年度当初予算では経常収支で赤字でしたが、園児の増加や見直しによって収支が均衡する見込みであること、一号児（幼稚園）の利用定員を七十五名から四十五名に変更することによってさらに改善すること示されました。神学校においてははなら枯れ等による伐採等の費用等が予算化されました。鶴川シオン幼稚園の運営に

ついては、加藤園長から、なお厳しい状況であるが徐々に認定子ども園として整えられてきているとの中間報告がありました。
 寄附行為施行細則の變更は、曖昧だった常務理事会の権限の明確化を図ったものですが、認定子ども園を運営する法人として、より適切な形を作っていく必要性があります。
 次回の理事・評議員会は三月三十一日（金）に開催予定です。
 「人事委員会」からのお知らせ
 現在、教職及び信徒宣教師の異動、教会の牧師招聘をお手伝いする「人事委員会」が組織されています。対象は農村伝道神学校同窓生に限りません。ご希望の教職、信徒宣教師、教会の方は禿理事長、平良校長にご相談ください。